

【ヌーラボ調査】約7割が「人数増で業務負荷増」と回答、チーム管理の限界は平均24.5人に

株式会社ヌーラボ（本社：福岡県福岡市、以下 ヌーラボ）は、チーム参加経験およびチームメンバー増加経験のある600名を対象に、「チーム人数増加に伴う業務負荷とマネジメントに関する実態調査」を実施しました。

近年、組織拡大や人員増加に伴い、「情報共有が追いつかない」「進捗確認に時間を取られる」といった課題を抱える企業が増えています。本調査では、人数増加によって発生する進捗確認や情報共有、説明・調整業務の負荷実態と、チーム運営における管理構造の変化が明らかになりました。

backlog
by nulab

30名の壁を どう超える？

【ヌーラボ調査】約7割が「人数増で業務負荷増」と回答、
チーム管理の限界は平均24.5人に



■ 調査サマリー

- 約7割（66.3%）が、チーム人数増加によって「業務や進捗管理の負荷が増えた」と回答。リーダー経験者では81.5%にのぼり、リーダー層に管理負荷が集中
- 人数増加で負荷が増える業務は、「進捗確認」が最多。会議・確認業務や個別問い合わせ対応も上位に
- プロジェクト進行上の課題では、「引き継ぎ時の情報不足」「同じ内容を複数人に説明する必要がある」など、情報共有・伝達に関する課題が顕在化
- 20～30名規模を境にチーム管理の負荷が増加。管理が難しくなり始める人数ラインは平均24.5人

【調査概要】

調査名: プロジェクト管理に関する調査

調査対象: 全国、20歳～59歳の男女（合計600名）

調査方法: インターネット調査

調査期間: 2026年2月20日（金）～2026年2月24日（火）

有効回答数: 600件

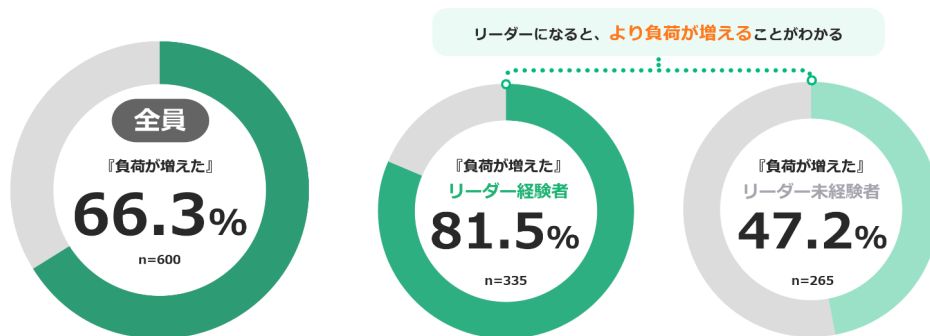
■ 調査結果の詳細

1. 人数増加で約7割が業務負荷増を実感。リーダー層では8割超に

チーム人数が増えるにつれて、業務や進捗管理の負荷がどの程度増えたかを聞いたところ、全体の66.3%が「負荷が増えた（非常に増えた・やや増えた）」と回答しました。これをチームリーダー経験の有無で見ると、未経験者では47.2%であるのに対し、リーダー経験者では81.5%に達しており、管理を担うリーダー層に負荷が集中していることがわかります。

チーム人数が増えるにつれて、業務や進捗管理の負荷はどの程度増えたと感じましたか。

「チーム参加経験ありかつチームメンバー増加経験ありの対象者(N=2,640)」から、600人を抽出



2. 負荷増の要因トップは「進捗確認」。情報共有・タスク管理の曖昧さが課題に

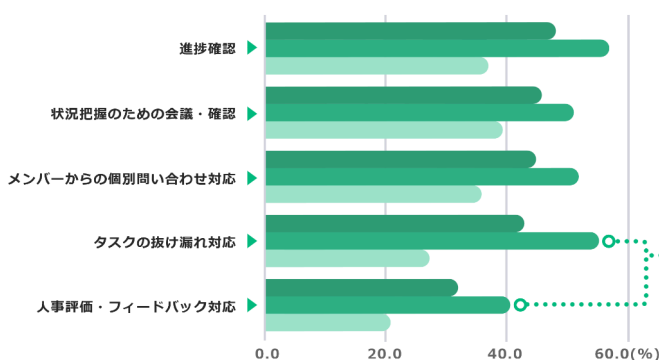
人数増加によって負荷が増えたと感じる具体的な業務は、「進捗確認（48.2%）」「状況把握のための会議・確認（45.8%）」「メンバーからの個別問い合わせ対応（44.8%）」となりました。特にリーダー層では、「タスクの抜け漏れ対応」「進捗確認」「人事評価」などで負荷増加が目立つ結果となりました。

チーム人数が増えるほど、メンバーごとの進捗把握や確認・調整業務が複雑化し、リーダー層を中心にコミュニケーションコストが増加している実態が見えてきました。

チーム人数が増えるにつれて、負荷が増えたと感じる業務をすべて教えてください。（複数選択）

■ …全体 (n=600)
 ■ …リーダー経験者 (n=335)
 ■ …リーダー未経験者 (n=265)

[人数増加で負荷が増えた業務（複数回答）]



リーダーになると特に「タスクの抜け漏れ対応」「人事評価」の負担が顕著に増えている

3. 人数増加で「情報共有・伝達」と「役割把握」の複雑化が進行

プロジェクト進行上の課題としては、「引き継ぎ時の情報不足」「同じ内容を複数人に説明する必要がある」「他メンバーの状況が見えない」が上位に挙がりました。さらに、調整のやり取りの増加や、プロジェクト全体の進捗把握・報告にかかる工数増加、担当／責任範囲の曖昧化といった課題も見られました。

人数増加によって、情報共有・伝達やタスク管理における役割把握が複雑化し、プロジェクト運営における確認・調整業務の負荷が高まっていることが分かりました。

プロジェクトを進めるにあたり、以下の事象はどの程度生じていましたか。それぞれあてはまるものをひとつ教えてください。

人数増加により発生する課題の頻度 n=600

- 1位 引き継ぎ時の情報不足
- 2位 同じ内容を複数人に説明する必要がある
- 3位 他メンバーの状況が見えない
- 4位 調整のやり取りが増える
- 5位 プロジェクト全体の進捗把握・報告に工数がかかる
- 6位 自分がどこまで対応すべきか迷う

情報共有・伝達に関する課題の頻度 n=600

- 1位 引き継ぎ時の情報不足
- 2位 同じ内容を複数人に説明する必要がある
- 3位 他メンバーの状況が見えない
- 4位 説明が簡略すぎて、内容を理解しきれない
- 5位 誰に何を伝えたか管理しきれない

タスク管理・担当の境界の曖昧化に関する課題の頻度 n=600

- 1位 引き継ぎ時の情報不足
- 2位 プロジェクト全体の進捗把握・報告に工数がかかる
- 3位 自分がどこまで対応すべきか迷う
- 4位 タスクが整理されず遅延してしまう
- 5位 優先順位の認識不一致
- 6位 担当/責任者が曖昧

4. 24～25人を超えると、チーム管理の負荷が高まる傾向に

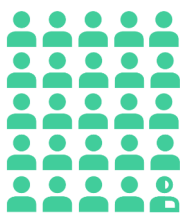
「この人数を超えると、チームを管理・把握する負担が大きくなりそう」と感じ始める人数ラインを聞いたところ、平均24.5人となりました。また、チーム人数が増えるにつれて管理の難しさを感じる傾向が見られた一方、「50名以上」のチームでも平均値は33.8名で落ち着いていました。

ヌーラボでは、20～30名規模を境に、進捗確認や情報共有、役割把握にかかるコミュニケーションコストが急激に増加すると捉えています。特に、複数メンバー・複数部門が関わるプロジェクトでは、「誰が・何を・どこまで進めているのか」を共通認識として維持し続ける難易度が高まり、確認や説明、調整のための業務が増えやすくなります。そのため、一定規模を超えたチームでは、情

報共有や進捗管理を支えるルール整備やツール活用が、継続的なプロジェクト運営を支える重要な要素になっています。

チーム人数について「この人数を超えると、チームを管理・把握する負担が大きそう」と感じ始めるラインを教えてください。

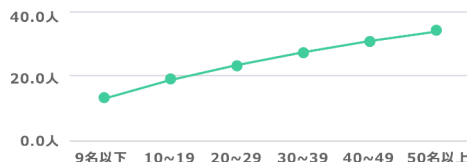
【管理が難しいと感じる人数】 (n=600)



平均
24.5人

リーダー経験の有無にかかわらず
24～25人あたりで管理負担が大きくなると感じ始める

【管理方法の限界ライン（人数別）】 (n=600)



チーム人数が増えるにつれて管理の難しさを感じているが、
「50名以上」のチームでも平均値は33.8名で落ち着いている

■ 調査レポート（ホワイトペーパー）の公開について

本調査結果をもとに、人数増加によって発生する管理負荷の背景や、プロジェクト運営で起こりやすい課題、その改善方法を整理したホワイトペーパーを公開しています。

レポートでは、本リリースで紹介した内容に加え、

- ・人数増加によって発生する「説明コスト」時間
- ・20～30名規模で起きやすい管理構造の変化
- ・情報共有やタスク管理が複雑化する要因
- ・ツール定着やコスト増加に関する課題
- ・AIを活用した情報整理・進捗管理方法

などについて、調査データとあわせて詳しく解説しています。

▼ホワイトペーパー ダウンロードはこちら

<https://backlog.com/ja/document/the-30-employees-wall/>

■ 本調査結果を使用される際のお願い

- ・本リリースの著作権は株式会社ヌーラボに帰属します。
- ・本リリース内容の引用・転載は、報道・紹介を目的とする場合に限り、出典として当社名（株式会社ヌーラボ）および可能な限り本リリースへのリンク又は掲載元情報を明記のうえご利用いただけます。
- ・なお、内容の趣旨を変更する改変、または商品・サービスの販売促進等を目的とした利用をご希望の場合は、事前に当社広報窓口（pr@nulab.com）までご連絡ください。

■ Backlogについて

Backlog（バックログ）は、チームで働くすべての人が使えるプロジェクト・タスク管理ツールです。課題管理やガントチャート、ドキュメントなどの機能を通じて、チーム全体の進捗や役割分担を一元管理し、情報共有・タスク管理の効率化を支援します。

<https://backlog.com/ja/>

■ 株式会社ヌーラボについて

代表者：橋本正徳

本社：福岡県福岡市中央区大名一丁目8-6 HCC BLD. 2・6・7F

東京事務所：東京都港区芝大門二丁目1番16号 +SHIFT SHIBADAIMON B1F

コーポレートサイト：<https://nulab.com>

採用サイト：<https://careers.nulab.com/>